

左京保健センター

左京保健センターにある小学校から「小学校の遠足で大文字山に登る予定にしている。事前に下見に行ったところハイキングコースにたくさんのスズメバチが飛んでいた。駆除してほしい」との連絡が入りました。

左京保健センターから「大文字山にスズメバチが群れ飛んでいる場所があり、巣を探しに行くのですが、同行願えませんか」との相談が衛生動物部門に入りました。以前から「スズメバチの巣を探すのにも、スズメバチの被害を防ぐのにも多少の知識は必要です。そうした場合は、依頼してください。同行します」と説明していたものですから、大文字山登山に同行することになりました。

ナラ枯れ

学校から指摘のあった大文字山山頂近くのハイキングコースのナラの木の周辺に数十匹のスズメバチが飛びまわっています。どうやら、巣があるのではなく、ナラの木の樹液が目的のようです。ナラの木のあちこちに白く樹液が出ています。スズメバチ類が争うように樹液に集っています。種類は、多くのヒメスズメバチと数匹のオオスズメバチでした。

付近には、樹液が発酵しているのか、甘酸っぱい匂いが立ち込めています。また、ナラの木の下には、細かい木くずが散乱しています。恐らくカシノナガキクイムシの仕業でしょう。この数年、京都周辺の山々のナラ木のカシノナガキクイムシによる立ち枯れがよく報道されます。その結果なのでしょう。

スズメバチトラップ設置

巣を見つけて駆除できればよかったですのですが、広い山の中では、到底不可能なことです。取りあえず、左京保健センターの職員が樹木の周辺にポリプロピレンのひもを張り、ハイカー達に注意を喚起するようにしたうえで、以前にも紹介したスズメバチトラップを3個設置し、消極的ですが、成虫の捕獲を試みました。

スズメバチトラップを設置してから20日後に回収したところヒメスズメバチ15匹とオオスズメバチ13匹が採集できていました。

スズメバチトラップのせいではないと思うのですが、木の周辺からヒメスズメバチが全くいなくなりました。恐らく、オオスズメバチとの縄張り争いに負けたのかもしれません。あるいは、ヒメスズメバチは、他の種類に比較して早く活動を終えるため、時期的に働きバチの活動が終わったのかもしれません。

餌場のスズメバチは人を襲う

オオスズメバチが樹液を食べに来ているところに接近して、写真撮影をしようとしたところ1匹のオオスズメバチが私の頭の周りに飛んで来ます。明らかに威嚇行動と思われるような飛び方です。簡単な防具を付けていたので心配はなかったのですが、防具なしでは、危険な状態だったかもしれません。機会あるごとにスズメバチ類が人を襲うのは、巣を守るための行動と説明していました。ところが、今回の事例は、オオスズメバチが餌場でも人を襲うことを実感した貴重な経験となりました。



ナラの樹液に集まるヒメスズメバチ



注意書きとスズメバチトラップ



採集したオオスズメバチ



腹部先端が黒色

採集したヒメスズメバチ